

日本骨髄バンクの現状（平成 23 年 4 月末現在）

	3 月	4 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,414	2,048	381,470	497,988
患者登録者数	241	195	2,660	32,753
移植例数	86	92	-	12,871

■20 歳未満のドナー登録者数

4 月 212 人
合計 14,629 人（17 年 3 月～）

■51 歳以上のドナー登録者数

4 月新規 68 人
延長 271 人
合計 22,554 人（17 年 9 月～）

■4 月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／765 人、献血併行型集団登録会／1,218 人、集団登録会／16 人、

その他／49 人

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 平成 24 年度の国庫補助金要望について

財団では、平成 24 年度国庫補助金について、①システム災害対策、②検体保存事業の全額国庫補助、③骨髄バンクニュース発行への国庫補助を 1 回分から 2 回分に増額、以上 3 項目を新たな要望として提出することとしました。

今般の大震災では、財団の基幹システムである「コーディネート支援システム」に障害は発生せず、業務の継続が可能でした。しかし、より大規模な災害に対しても事業継続が可能となるようバックアップのあり方を見直し、適切な災害対策を講じる必要があります。次に、検体保存事業についてはこれまで東海大学との共同研究事業でしたが、今年度から国庫補助事業として位置づけられました。この事業は移植医療の成績向上のための研究基盤整備を目的としており、適切に維持継続することが必要であり、現在 1/2 の補助率を全額国庫補助として要望するものです。また、年 2 回発行している骨髄バンクニュースは、ドナー登録者の提供意思の継続を図るためにも重要ですが、現在国庫補助が 1 回分であることから、2 回分への増額を要望していきます。

2 平成 24 年度の診療報酬改定への要望について

これまで骨髄バンクの患者負担金を解消するために、2 年毎の診療報酬改定に際して要望を行い、これが徐々に認められてきました。しかし、非血縁者間の骨髄移植・末梢血幹細胞移植を受ける患者には依然として患者負担金が残っており、現在約 19 万円（注：ドナー 4 名の確認検査を実施し、移植に至ったモデルケース）となっている患者負担のさらなる軽減・解消が必要です。また、年間約 1,200 件の骨髄バンクを介した移植が行われるなか、施設においては多忙な医師に代わりドナーと患者の双方の観点から調整業務を行う「移植コーディネーター」の設置が不可欠です。そこで、「造血幹細胞移植管理料」（仮称）として診療報酬上の評価を求めます。

財団では平成 24 年度診療報酬改定に際して、これら、①患者負担金の軽減、②「造血幹細胞移植管理料」（仮称）の新設、について要望していくこととし、先日、要望書を提出いたしました。

3 東日本大震災への対応について

東北 6 県のうち、青森県（一部地域を除く）、秋田県、山形県については、ドナーの移動手段となる交通機関が運行し、医療施設もおおむね受け入れが可能であることから、5 月 9 日（月）より

新規コーディネート・確認検査を再開しました。ただし、ドナーの方のコーディネート進行にあたっては、状況を伺い個別に判断します。福島県、宮城県、岩手県については引き続き新規コーディネート・確認検査を見合わせます。なお、岩手県についてはコーディネート再開に向けて、さらなる状況把握に努め、検討を行っております。

また、5月9日（月）より検体保存事業を再開しました。詳細は、4月28日付「東日本大震災に関するコーディネートの対処方針について」（第4報）をご参照ください（財団ホームページに掲載しています）。

4 非血縁者間末梢血幹細胞移植診療科・採取施設の認定について

以下の施設が新たに非血縁者間末梢血幹細胞移植診療科・採取施設となりました。これまでに認定された施設は21施設です。新規認定施設については、財団ホームページ「患者さんへ」の「移植認定病院」及び「ドナー登録されている方へ」の「面談施設一覧」でもご覧いただけます。

◆非血縁者間末梢血幹細胞移植診療科・採取施設

【移植診療科】

国立がん研究センター中央病院 造血幹細胞移植科

【採取施設】

国立がん研究センター中央病院

5 評議員選定委員会の開催について

当財団は昨年9月の臨時理事会・評議員会において、新法人へ移行する際の最初の評議員の選考方法について、外部委員2名を含めた委員5名による「評議員選定委員会」を設置することを決定し、10月には厚生労働大臣の認可を受けました。一方、3月末の通常理事会・評議員会において、この評議員選定委員会に推薦する評議員候補者案が、それぞれ提出、承認されました。

4月19日、評議員選定委員会が開催され、理事会、評議員会から推薦された候補者案に基づき、審議がなされ、新法人の最初の評議員が選任されました。なお、この最初の評議員については、6月の通常理事会・評議員会で報告がなされる予定です。

6 SUPER GTの3選手が病院訪問

4月28日、日本で最も人気のある自動車レースシリーズ「SUPER GT」で活躍するアンドレ・クート、武藤英紀、柳田真孝の3選手が、富士スピードウェイで開催される第2戦を前に、静岡県立こども病院を訪問しました。3選手と集まった子供たちはジャンケンゲームや記念撮影で楽しいひと時を過ごし、選手から子供たちへミニカー等のプレゼントが手渡されました。

7 タリーズコーヒー全店舗に「チャンス」設置

全国で400軒以上のコーヒーショップを展開するタリーズの全店舗に、ドナー登録のしおり「チャンス」が設置されることになりました。これまで骨髄バンクを知らなかった方に「チャンス」を手にしていただく機会が広がります。全店舗への設置は5月中旬の予定です。



8 新潟県加茂市が骨髄ドナーのための助成制度を導入

全国初となる骨髄ドナーのための助成制度が、新潟県加茂市で導入されました。これは、骨髄バンクを通じて骨髄提供を行った市民に対し、入院・通院 1 日当たり 2 万円を支給するというものです。この制度がドナーさんの後押しとなり、より多くの患者さんの救命につながることを期待したいと思います。

9 20 周年記念大会開催のお知らせ

当財団は本年 12 月 18 日、設立から 20 周年を迎えますが、この 20 周年を記念して記念大会の開催、記念誌の発行などを企画しています。記念大会は関係者の皆様へ感謝する集いです。多くの方々のご参加をお待ちしています。

日時：平成 23 年 12 月 17 日（土）13：00～17：00

場所：東商ホール（東京都千代田区丸の内 3-2、東京商工会議所ビル 4 階）

内容：第一部 記念式典、第二部 記念のつどい

10 財団の会議開催予定

傍聴をご希望の方は、事前に財団事務局総務部までお申し込みください。

	公開・非公開	開催予定
常任理事会	公開・一部非公開	5 月 27 日（金）17:30～ 廣瀬第 1 ビル 2 階会議室

11 システム更新に伴うハードウェア調達的一般競争入札のお知らせ

当財団の基幹業務システムである「コーディネート支援システム」は、本年度国庫補助金により「末梢血幹細胞移植に対応する機能追加及びシステム基盤の全面刷新」を行うことになっており、このシステム更新に伴う物品（サーバー、端末 PC、モニター等のハードウェア、OS 等のミドルウェア）の調達については、調達手続きの透明性及び競争性の確保を図るため、政府調達に準じて一般競争入札（最低価格落札方式）を行います。詳しくは当財団 HP をご覧ください。

コーディネート関係者のコーナー

ここからは、調整医師、採取施設、移植施設およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

12 平成 23 年度コーディネーター研修について

本年、当財団は設立 20 周年を迎えます。各自が原点に立ち返り、ドナーの自由意思を尊重し安全を優先しつつ、骨髄バンクの使命である患者救命のために、それぞれの役割を果たすためにはどうしたらいいかを、あらためて考えてみたいと思います。現在、財団設立当時には想像できなかったほどコーディネート件数が増え、内容も複雑になり、ドナーも多様化しています。これら



に対応するためには、研修を通じて、コーディネートに対する態度や考え方について意識と知識を共有することや、共通認識のもと組織として責任あるコーディネートに取り組んでいくことが必要となります。

今年度は、急務であるPBSCTの研修（理解を深め、知識を定着させ、説明方法の演習などを行うこと）と、説明事項の増加、対応の複雑化に備え、コミュニケーションの基礎を確認する研修などを必須項目とし、このほかに各地区で必要とされる研修を企画・実施していきたいと思えます。コーディネーターの皆さまには、別紙「平成 23 年度コーディネーター研修について」を同封しますのでご参照ください。

なお、「中央スーパーバイザー」の大木桃代先生は昨年度をもってご退任されました。今年度からは、コーディネーションスタッフ、地区事務局、ドナーコーディネート部がコーディネーターの相談に対応させていただきます。

13 第 12 回コーディネーター養成研修会研修生の認定・委嘱について

コーディネーターの活動休止・辞退などによりコーディネーターが不足していた関東地区（栃木、茨城）と中部地区（愛知、石川）において、本年 1 月よりコーディネーター養成研修会を実施しました。

1 月から 3 月までの研修を経て、4 月中旬の「コーディネーター委嘱審査会議」において、関東地区 4 名、中部地区 5 名の認定・委嘱が決定し、5 月 11 日付で研修の全過程を修了した研修生に認定証・委嘱状を授与しました。未修了の研修生については全ての研修が修了した段階で認定証・委嘱状を授与し、順次、活動を開始する予定です。研修期間中の調整医師、採取施設の先生方およびコーディネーターの皆さまのご指導にあらためてお礼を申し上げます。今後とも引き続きご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。

14 連絡事項

◆検体保存事業の再開と検体送付の宛名等の変更について（採取施設・移植施設の先生方へ）

震災に伴い検体保存事業を一時休止していましたが、5 月 9 日（月）より、財団からの採血管等の発送を再開することとなりました。震災前にお届けした採血管等がある場合、採血は不要ですので、お手数ですが廃棄してください。5 月 9 日（月）以降お手元に届いたものについて採血をしていただきますようお願いいたします。

また、検体保存事業の検体送付の宛名および FAX 番号が以下のとおり変更となりました。住所、電話番号の変更はありません。

■宛名【変更前】東海大学医学部基礎医学系分子生命科学	■FAX 番号【変更前】0463-96-4137
↓	↓
【変更後】東海大学医学部付属病院 血液腫瘍内科	【変更後】0463-92-4511

これに伴い、5 月 9 日（月）財団発送分より、「血液検体発送の連絡」（検体採血施設から東海大学へ FAX する帳票）の該当部分を変更しました。ご対応よろしくお願いたします。